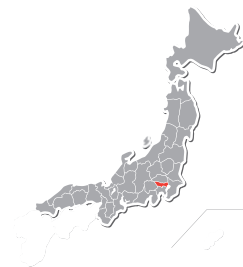


全国漁業信用基金協会 東京支所



1 東京都の紹介

東京都は、日本の政治・経済・文化の中心として発展し、世界有数の大都市圏を形成しています。都心には高層ビル群が立ち並び、国内外から多様な人々が集まり、昼夜を問わず活気に満ちています。国内総人口の約1割、1,400万人が集中する巨大都市です。

しかし、東京都の魅力は都市機能だけではありません。多摩地域や伊豆諸島・小笠原諸島の島しょ地域には、豊かな自然が残されています。島しょ地域へのアクセスは、定期客船や航空機などがあり、24時間の船旅を楽しめる場所もあります。島との出会いは、非日常を体験することができる貴重なひと時です。

また、一般の人が住むことができない、沖ノ島や南鳥島など、国境離島も東京都です。

島しょ地域は「時がゆっくりと流れる癒し空間」として、評価され、火山島の雄大な地形、透明度の高い海、固有種の生態系など、世界的にも価値の高い自然環境が広がっています。



東京都心



神津島 沢尻湾

2 東京都の漁業

大都市のイメージが強い東京都ですが、実は多様な漁業が営まれ、3つに区分されます。

- (1) 島しょ地域(伊豆諸島・小笠原諸島)
- (2) 東京内湾
- (3) 多摩川などの河川

島しょ地域は東京都の漁業生産の中心であり、20トン未満の小型漁船による1~2名の日帰り操業が大半を占めています。伊豆諸島ではキンメダイなどの底魚一本釣り漁業、マグロやカツオの曳縄漁業、小笠原諸島ではメカジキやソデイカの縦縄漁業、ハマダイやハタ類などの底魚一本釣り漁業が行われています。東京内湾ではアサリ、スズキ、アナゴなど

「江戸前」の魚介類を都民に提供しています。多摩川や江戸川では、シジミやアユ、ウナギが、多摩地域では、イワナ、ヤマメ、ニジマスに加え、東京都が開発した「奥多摩やまめ」が養殖されています。

一方、漁業者を取り巻く環境は厳しさを増し、以下の課題が顕在化しています。

- (1) 資源管理や海洋環境の変化への対応
- (2) 人材の確保・育成とデジタル技術の活用
- (3) 食育活動の充実など多面的機能の発揮
- (4) 燃油・資材等の高騰対策

島へのご案内



国境離島



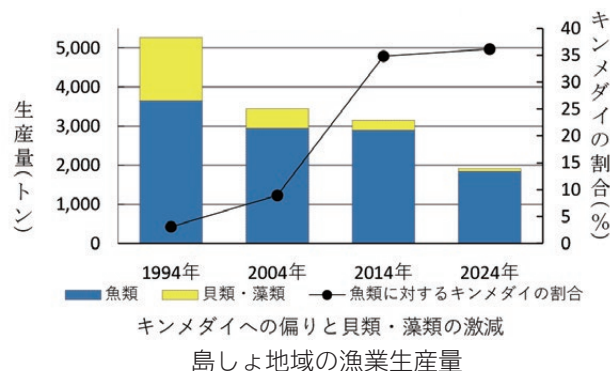
水産業振興プラン



出展：(公財)島しょ振興公社

出展：東京都

出展：東京都



漁業者をはじめ関係者は、こうした課題に対応していくため、東京都が2021年6月に策定した「水産業振興プラン」の下、東京の水産

業を持続可能で競争力のある産業への転換していくために、日々努力しています。

3 東京支所の概要

東京支所は、港区に事務所を構え、レインボーブリッジを望む立地にあります。広域を対象とする支所として、漁業者・漁協だけでなく、東京都、町村、関係団体との連携が重要であり、行政・金融・漁業のハブとして機能しています。

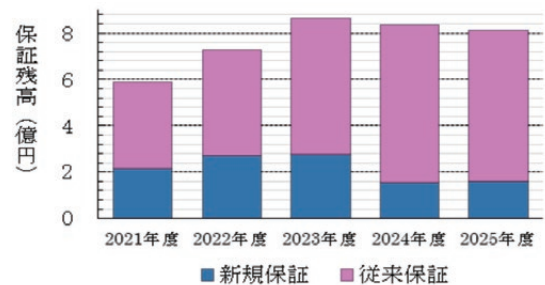
- 所在地：東京都港区港南四丁目7番8号
- 電話番号：03-3458-2431
- E - M A I L：tokyo@zengyoki.or.jp
- 全国協会理事：岩田光正
- 会員数：34 会員
- 出資金総額：363,700 千円 ('26.3.31 現在)
- 債務保証残高：814,064 千円 ('26.3.31 現在)
- 職員数：3 名



東京支所
(都漁連水産会館3F)



支所のみなさん
(支所長 岩田理事 執行役員 会計主任)



近年の保証残高は8億円程度で『安定』
保証残高の推移

4 東京支所の取り組み

東京都の漁業は、海洋環境の変化、就業者の高齢化、資材価格の高騰など、全国と同様の課題を抱えています。さらに、生産地の大部分が離島である東京ならではの特性が存在します。こうした状況の中、東京支所では、中期目標・計画(2026~29)に基づき、以下の取り組みを進めています。

■中期目標

漁業者・漁協の円滑な資金調達に対応できるよう、引き続き一定の収益確保に努め、2029年度決算の目標は「収支均衡」としてします。

■具体的な取組

- 系統団体や東京都、町村との連携強化
- 保証委託者の発掘と事業等の積極的なPR
- 漁海況情報収集と期中管理による事故防止
- 金融環境変化に対応した財務収支の向上

○効率的、効果的な業務を運営

東京支所は、都市部の強みを活かしつつ、漁業者を支える金融インフラの一つとして、今後も東京都の漁業振興に寄与していきます。



～ Menu ～ 島の食材 盛りだくさん
・キンメダイの煮つけ・地魚の刺身盛り合わせ・くさや
・明日葉の和え物・パッションフルーツ

漁師民宿のご馳走 ※イメージ